

令和6年度 浜松市立浜名中学校 学校評価報告書

1 自己評価

令和6年12月に、生徒、保護者、職員を対象にアンケートを取り、教育課程編成会議を開催して教育活動について、(1)徳、(2)知、(3)体の分野に分け、自己評価を行った。自己評価結果の結果は以下の通りである。

(1) 徳

学校全体として、生徒たちの規範意識が高く、自他の命を大切にし、いじめはいけないという意識が高い。担任や部活動顧問以外でも、生徒が話の出来る教員がいるということからも、生徒と教員の関係も概ね良好である。反面、交通マナーについては地域から御心配の連絡があったり、挨拶についても年々声が小さくなっていたりしている。「高めよマナー」の合言葉のもと、学校として生徒や保護者の意識を変え、具体的に向上するような方策を講じていきたいと考えている。

(2) 知

授業に真剣に取り組んでいる生徒が多い。昨年度よりも生徒のICT機器（タブレット端末）の活用率や、活用方法の質的な向上が見られた。今後も引き続き、生徒の多様な実態に応じて、より「個別最適な学び」を実現させるために、ICT機器の効果的な活用方法の模索や情報モラルの指導をさらに推進していく。

(3) 体

規則正しい生活を送っている生徒が多く、学習や部活動に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。しかし、生徒自身や教師も「(生徒が)自分で決めたことを、最後まで取り組む」姿がまだまだ欠けていると考えており、今後、様々な教育活動において目標を明確に定め、全力を尽くす、心身ともにたくましい生徒の育成を目指していく。

(4) その他

学校からのたよりやブログ、メール等での情報発信について、保護者からの評価は今年度も変わらず高い数値を維持している。次年度も引き続き、生徒のはつらつとした様子を発信していき、学校が地域に元気を供給できる存在になりたい。

2 学校関係者評価

令和7年2月7日(金)に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

(1) 徳

- ・「安全」や「命の大切さ」についての理解があり、日頃からそれらを意識していることがうかがえるのが素晴らしい。
- ・社会のマナーやルールは理解して守られているのではないかと思う。また自分の役割や決められたことは実行することはできている。

(2) 知

- ・委員会や係活動、行事などの活動において、その役割を認識し、一生懸命に取り組んでいることが素晴らしい。
- ・保護者から見て、我が子が学校の様子を家庭で話したり、進んで家庭学習や家の手伝いをしていたりする数値が低いのが気になる。ただ中学生という年齢では仕方がないという面もある。

(3) 体

- ・学校が夢や希望を持てる、わくわくする場となるように生徒と共に作っていくことがお互いの成長になると思う。
- ・将来の夢や希望については、悩みながら過ごす時期であることから、引き続き学校としても考える学習機会を考慮することを望む。
- ・自ら考え、判断することが感じられないと思っているのではないか。自分から決めたことを最後まで取り組む、将来について考えるなどなかなか自分の意志を言える機会がなく、また少し恥ずかしいと思うところもありそうに感じる。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価に基づき、以下の改善方策を立てた。

(1) 徳

「マナーの学校」として、挨拶や正しい身なり、円滑な人間関係など、時と場に応じたマナーを身に付けた生徒の育成に取り組んでいく。次年度は校訓を「高めよマナー」に改訂し、生徒と教師が一体となってマナーの向上に取り組む。教師から生徒への声掛けはもとより、生徒間でも声を掛け合い、認め合っていく「自治の精神」を合言葉に設定し、浜松1の学校づくりを目指していく。また、生徒たちの自己肯定感を高めるために、どの子にも明るく丁寧な対応を行い、互いを思いやる心を育てていく。

(2) 知

次年度もキャリア教育とGIGAスクールを柱に、教育活動を進めていく。キャリア教育では、本校が策定した「かかわる」「みつめる」「ふかめる」「みとおす」の4つのキーワードをどの授業でも生徒に提示し、学校の学びが実生活・実社会につながっていることを意識化させる。GIGAスクールでは、ICT教育やタブレット活用などを通して、個別最適化された学びの実現に向けてさらに実践を積み重ねていく。生徒が主体的に学び、自己有用感を身に付けることのできる環境を整えていく。

(3) 体

生徒たちは授業や部活動に目的意識を持って熱心に取り組んでおり、今後も継続して指導していく。特にそれぞれの活動の目標を定め、全力を尽せるような環境を作り出していく。指導の場に必ず教師がいることで献身的な指導を行う。

生徒たちが規則正しい生活を送るように継続して指導するとともに、学校便りや生徒指導便りを通して保護者の意識を高められるよう、啓発していく。